

岡 財 第 360号  
平成30年9月27日

各 局 区 室 長  
各 事 務 局 長  
教 育 長  
(主 管 課 扱 い) 様

財 政 局 長

平成31年度予算編成方針について（依命通達）

このことについて、岡山市予算規則第6条の規定に基づき、別添予算編成方針により平成31年度予算を編成するので通達する。

## 平成31年度予算編成方針

### 1 財政の現状と見通し

本市では、財政の健全性、透明性に配慮しつつ、第六次総合計画に基づき、各般の政策を推進しているところであり、平成29年度決算に伴う財政指標についても、総じて健全に推移している。しかしながら、市税収入や地方交付税など一般財源総額の大幅な増加が見込めない中で、災害への対応をはじめ、子ども子育てなど社会保障関係経費、公共施設の老朽化対策などに多額の経費が必要となると見込まれており、引き続き市民サービスを持続的に提供していくため、財源対策に意を用いる必要がある。

新年度の収支見込みについても、消費税率の引上げや、幼児教育無償化の影響を見込むほか、扶助費、普通建設事業費などが増加する見込みであるとともに、喫緊の課題である防災対策もあることから、財政規律の維持が求められる状況である。

### 2 予算編成の基本的な考え方

「入るを量りて出ざるを制す」を旨として、歳入の規模にあった歳出とすることを予算編成の基本とし、将来世代に負担を先送りしない財政規律を守りつつ、資源配分の重点化を通じて、災害に強い安全・安心なまちづくりや魅力と活力あるまちづくりなど岡山市の発展と市民生活の充実に資するものとする。

#### (1) 基金の管理

財源調整のための基金である財政調整基金等は、9月補正（災害関連）で25億円余を取り崩したところであるが、引き続き、災害や急激な市税収入の減少など予期せぬ財源不足への対応のため、一定程度の残高を維持する必要があることから、取崩額は、前年度同期と同水準を目標とする。

#### (2) 市債の管理

借入金である市債の発行については、臨時財政対策債等の元利償還金の全額が地方交付税に算入されるものを除き、時限的で有利な起債の活用を最大限に図りながら極力抑制する方針であり、借入と償還の均衡から200億円以内を目標とする。

#### (3) スクラップアンドビルド

全ての新規事業及び拡充事業は、スクラップアンドビルドを基本とし、各局区室においては、経常経費の無駄や非効率を取り除くとともに、全ての事業について目的・効果を改めて検証し、社会情勢や市民ニーズの変化により必要性が薄れ、費用対効果が少なくなった事業については、徹底した見直しにより廃止や再編を行うなどの工夫により、自ら財源を生み出すこと。

### 3 予算要求の基準

平成31年度予算要求に向けては、各局区室において主体的に経常経費の積極的な見直しや、歳入増、事業選択等の創意工夫に取り組み、平成30年7月豪雨災害を踏まえた防災・減災対策や各種計画に位置付けられた重点事業など優先度、緊急性が高い施策が着実に前進するよう、シーリングを設定することとする。

具体的には、次のものを除き前年度同額以内とする。

- (1) 「物件費」、「補助費等」101%（消費税増税に係る歳出増と合わせて実質100%）
- (2) 「維持補修費」102%（公共施設の老朽化対応を勘案）
- (3) 「普通建設事業費」地方負担ベースで前年度同額を基本としつつ別途管理
- (4) 別紙シーリング対象外事業

### 4 その他の事項

国の予算編成は、市の予算編成に大きな影響を及ぼすとともに、事業内容を大幅に見直しざるを得ない場合もあることから、各局区室において、経済対策等の補正予算を含め、国の動向を十分に把握し、機動的に対応できるよう準備されたい。

市議会や定期監査等の指摘事項については、各局区室において十分検討したうえで、予算要求に反映させるよう必要な措置を講ずることとされたい。

財政の透明性を向上させ、市政に対する関心をより一層高めるため、平成31年度当初予算においても、引き続き予算編成過程の「見える化」を実施する。

各局区室においては、この予算編成方針の下、事業の緊急性、必要性、優先度等の観点から重点化を図るとともに、都市経営的な視点に立ち、自ら徹底的に無駄を排除、そぎ落とししたうえで、真に必要な事業を厳選して要求されたい。

[別紙]

シーリング対象外事業

- 1 人件費（全庁一括要求分）
- 2 扶助費（法定義務分のみ）
- 3 積立金
- 4 公債費
- 5 予備費
- 6 その他特に認める事業